

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が主体的に学ぶ意欲を高める教育課程編成を行う。</p> <p>②すべての教科等において、学び直しや生徒が互いに学び合う学習活動を取り入れるなど、知識・技能の習得のみならず、それらを活用する力を育む魅力ある授業を展開する組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>①今年度開講される新教育課程科目について、引き続き目標設定及び指導と評価について研究を行う。</p> <p>②ICTをツールとして知識・技能を活用する力を育成するとともに、社会との関わりを実感しながら生徒の自己肯定感を高める魅力ある授業を展開する組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>① 単元ごとの目標設定及び指導と評価について、引き続き研究を進める。</p> <p>③本年度もすべての教科でICTを活用する授業実践を目指し、その成果や課題について教科を超えて情報共有を図る。また、ICTの活用を通し、社会的な見方・考え方の育成を図る。</p>	<p>①単元ごとの目標設定及び指導と評価について、適切に実施できたか。</p> <p>②生徒による授業評価において、肯定的評価が80%を超えたか。</p>	<p>①今年度開講の新教育課程科目における単元ごとの目標設定及び指導と評価では、適切な評価を実施できた。</p> <p>②後期授業評価のすべての項目における肯定的評価合計値は90%となって前期評価を上回り、前期授業評価の結果を活かした授業改善の成果が顕れている。</p> <p>ICTの活用については、積極的な活用が全教科に定着し、教員間の情報交換等によるスキルの向上が見られた。</p>	<p>①全講座が新教育課程科目となる次年度に向け、新たな開講科目をはじめとした各科目の単元ごとの目標設定及び指導と評価についての研究と実践に取り組む必要がある。</p> <p>②理解できた、活用できたこと、学びを実感できる授業改善に努め、その成果を授業評価で見極めながらさらなる向上に取り組むことが必要である。またICTの活用については、今後も職員間の情報共有を密にしてスキル向上を図る必要がある。</p>	<p>②後期授業評価が前期評価を上回り、前期授業評価の結果を活かした授業改善の成果が顕れていることは評価できる。</p> <p>ICTの活用についても、積極的な活用が行われていることは評価できる。</p>	<p>①新教育課程科目における単元ごとの目標設定及び指導と評価では、適切な評価を実施できた。次年度開講科目についても研究と実践に取り組む必要がある。</p> <p>②後期において、前期授業評価の結果を活かした授業改善の成果をあげられた。</p> <p>ICTの活用については、積極的な活用が全教科に定着し、スキルの向上が見られた。</p> <p>今後も職員のスキル向上を図る必要がある。</p>	<p>①次年度開講科目においても、単元ごとの目標設定及び指導と評価についての研究と実践に取り組む必要がある。</p> <p>②学びを実感できる授業改善のため、授業評価を活用しながらさらなる向上に取り組むことが必要である。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・ 支援	<p>①生徒の基礎的・基本的な生活習慣の確立に努める。</p> <p>②生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえた適切な支援を行う。</p>	<p>①生徒の状況に配慮しつつ、信頼関係に基づくコミュニケーションの確立に努め、予防的な生徒指導体制の充実を図る。</p> <p>②生徒の状況に配慮しつつ、組織的な教育相談体制の構築と充実を図る。</p>	<p>①授業中の巡回指導やマナー指導を全員体制で行う。</p> <p>②SCやSSW及び外部機関との連携を通して社会的資源を活用し、教育相談体制の拡充を図る</p>	<p>① スマートフォンの使用方法等のマナー指導を含めた授業規律及び指導体制の見直しを行う。</p> <p>②教育相談体制の発展的な充実と情報共有を徹底して行う。</p>	<p>①職員による授業中の巡回指導で一定の成果が出ているが、今後も全員体制での指導を継続して行う必要がある。</p> <p>②生徒数が少ないこともあり、個々の生徒の課題に応じて、きめ細やかな生徒支援ができていない。また、「いじめ防止対策校内研修会」を職員全員で行い、「かながわ子どもサポートドック」を実施した。引き続き、全職員が生徒とのコミュニケーションを密にし、生徒の課題把握に努めて課題解決に向け、情報共有を図る。</p>	<p>①指導の在り方をさらに工夫して、生徒が自ら授業規律を守ることができる教室内の環境作りに努めていく。</p> <p>②生徒とのコミュニケーションを密にし、生徒の抱える課題の早期発見に努める。また、SCやSSWの他、外部機関とも連携を取り、各生徒の実情に応じた生徒支援の充実を図る。</p>	<p>①指導の在り方を工夫していくことは重要である。</p> <p>②生徒とコミュニケーションを取り、信頼関係を構築していることは素晴らしい。</p>	<p>①授業中の巡回指導が定着し、落ち着いた授業態度が見られるようになった。今後は、効果的なICTの利活用を促しながら、マナーも身に付けられるよう、授業規律及び指導体制の確立を目指す。</p> <p>②生徒数が少ないこともあり、個々の生徒の課題に応じて、きめ細やかな生徒支援ができていない。引き続き、全職員が生徒とのコミュニケーションを密にし、生徒の課題把握にさらに努めていく必要がある。</p>	<p>①指導の在り方をさらに工夫して、生徒が自ら授業規律を守ることができる教室内の環境作りに努めていく。</p> <p>②外部機関との連携を継続し、生徒相談体制の強化を図り、生徒一人ひとりに寄り添った支援を行う。</p>
3 進路指導・ 支援	<p>①豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することの</p>	<p>① 社会性を培い社会的・職業的自立を目指し、社会との繋がりを実感すること</p>	<p>① 学校行事及びキャリア教育において機会を捉えて社会との繋がりを意識</p>	<p>① 学校行事の参加が増えたか。生徒アンケート</p>	<p>①学校行事に関するアンケートは目標値の80%を超え、93%になった。充</p>	<p>①さらに充実した学校行事を行うことによ</p>	<p>①キャリア教育の充実の一層努めてほしい。</p>	<p>①キャリア教育の充実や外部機関との連携を深め、生</p>	<p>①生徒数の減少に伴い、学校行事の運営方法を</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	できる生徒の育成を図る。  ②卒業と進路希望の実現に向けたきめ細かい指導を行う。	ができる学校行事・キャリア教育を実践する。  ②社会に繋げる進路指導のために個に応じた指導を行う。	させる工夫を講じる。  ②生徒の進路希望に応じた指導・支援を全職員で協力して行う。	結果で肯定的回答が80%を超えたか。  ②就職内定率100%を確保することができたか。	実した学校行事ができた。初めての試みとして、小田原城北工業高校定時制と合同のキャリア教育講演会を7月に実施した。  ②2月現在、就職希望の生徒達は、就職活動中である。10名の就職希望者のうち、7名が内定をいただいている。	り、生徒の自己肯定感や自立心を育む。  ②引き続き、生徒の進路希望に応じたきめ細かい指導・支援を全職員で協力して行う。	②今後も生徒の進路希望に応じた指導・支援を全職員で協力して欲しい。	徒の自己肯定感や自立心を図る一層の取組が必要である。  ②卒業と進路希望の実現に向けたきめ細かい指導を行い、生徒の進路希望に応じた指導・支援を行うことができた。今後も一層充実した進路指導・支援を行う。	検討する必要がある。人数が少ないながらも社会貢献活動など社会とつながりがもてる行事を積極的に行う。  ②生徒一人ひとりの進路希望に応じた指導・支援を、今後も全職員で協力して行う。
4	地域等との協働	① 外部機関との協働を通して、地域の教育力を活用し地域とともにある学校づくりを進める。	① 社会貢献活動として学校周辺の清掃活動や募金活動を行う。県西地区若者サポートステーション等との連携を強化し就労支援を行う。	① 清掃活動の参加率が80%を超えたか。また、県西地区若者サポートステーション等との連携は深まったか。	① 清掃活動を生徒会主催で行ったところ、参加は目標値の80%を超え、81%になり、社会貢献という点において、充実した清掃活動ができた。  外部機関との連携としては、西部総合職業技術校によるキャリア支援講座をテーマ学習で実施している。	① 社会貢献活動の意義を考える機会を増やすなどして、清掃活動等の参加者増に努める。  西部総合職業技術校だけでなく県西地区若者サポートステーション等の外部機関と連携し、今後も就労支援を行う。	① 地域貢献活動については、地域住民や近隣の中学校とも連携して行うてはどうか。	① 清掃活動は生徒会主催で行い、参加率を高めることができた。地域との協働については、清掃活動以外にできることも検討していく。	① 清掃活動については、来年度は地域住民や近隣の中学校と連携して実施できるよう計画する。
5	学校管理 学校運営	① 生徒の安全、安心が確保された学校づくりを進める。  ② 事故・不祥事のない、信頼される学校づくりを進める。	① 防災教育の充実及び防災備品の点検・整備を通じて生徒の安全、安心を確保する。  ② 不祥事防止に向けた高い意識を常に持ち互いに指摘・相談しあえる同僚性を高める。ICT利活用推進を通して個人情報漏洩リスクを回避する情報管理を行う。	① 災害図上訓練や停電を想定した実践的な防災訓練を行い、防災に備える意識を高める。また防災備品の定期的な点検・整備を行う。  ② 業務分担を明確にするとともに気づいたことをすぐに指摘し改善する体制を構築する。個人情報の徹底管理に努める。	① 防災訓練後、アンケートを実施し[実践的であった]の回答が80%を超えたか。  ② 業務分担が明確であったか、個人情報管理が徹底できたかを年度末のグループや担当者会等で確認する。	① 前期防災訓練は大規模な地震発生を想定し行った。生徒および教職員が迅速に統制のとれた行動をとることができた。11月に停電を想定した実践的な防災訓練を実施した。生徒アンケートによる回答は、目標値の80%を超え、92%になった。実践的な防災訓練ができた。  ② 個人情報に関しては、引き続き、徹底管理に努める。	① 停電を想定した防災訓練と生徒アンケート実施後に、生徒の安全、安心を確保できる防災教育が行われているか検証する。  ② 業務分担が明確であったかや、気づいたことをすぐ指摘、改善する体制の構築に関しては、随時確認するよう努める。	① 停電になった場合を想定した防災訓練は実態にあった実践的な防災訓練であった。防災備品の整備や防災教育においても確実に改善している。今後も継続して欲しい。  ② 分担をより具体化したことは不祥事防止対策になった。職員同士で連携して学校の活動をより活性化してほしい。	① 夜間定時制であるため停電を想定した暗い中での防災訓練を行い非常時の実践的な訓練ができた。防災備品の整備や防災教育においても確実に改善している。今後も継続して欲しい。  ② 入学者選抜業務において個人ごとの担当表を作成し、業務と担当者を確認して不祥事防止対策を行った。日頃からコミュニケーションをとり同僚性を一層高める。  ② 打合せ事項や役割分担などが常時確認できるよう体制づくりを行い、年度末における各グループや担当者会議での振り返りを今後も継続し、グループ間でも共有する。